

ごはん・お米とおたし

東松島市立矢本第二中二年 斎藤 りん

私は毎日、朝、昼、晩とかかさずごはんを食べます。

でも、小学校二年生までは好き嫌が多く平気でご飯を残していました。そして、あの東日本大震災で食べる物や飲み物がなく、すごく辛い思いをしました。平気でご飯を残していたのに、やはりもう何日もまとまらないうちにご飯を食べていなくなつたので、あの柔らかな米の間

食や甘みがすごく恋しくなりました。津波で私の家は住める状態ではなくなつたので、おばあさん家にしばらく住み、おばあさんの家にあつた釜とボサロカスコンロで少ない米をみんなに分けて食べました。稲の家にあつた米も下の方のは、ドロ水でダメで、上の方の米を持って、大事に食べました。それから私は、米を大事に残さず食べたいです。震災の時はすごく大変でした。米があるだけ幸せでした。

でも中には、米がなくおかずもなく水もあまり飲めない国があります。私達は今、普通にご飯を食べています。その時に米があまりない国の人達は、どうしているのだろうか。と、下く考えます。

そして私は、そういう風に、ご飯をまともに食べない国があるのに、自分達はこんなにお腹一杯食べていて良いのかと考え、自分もその人達のような苦しみを味わおうと思

い、米をいっつもふり減らして食べていました。

ある日、心配になったのか、母が「最近食欲がないけど、どうしたの？」と言われ、話を話しました。すると母は「いっつも何で募金をしてるか分かる？」と聞いてきました。そして母は「そういう食べる物がなく、病気になつた人のために、薬や食べ物を買って送る、マいるんだよ。」と言われました。また、母は「だから、ご飯を残したり、食べない、というの、は一番その人達に失礼なんだよ。」と言われ、当時また、四年生だった私は、逆に失礼

な事をしたな。と思いましたが。でも母は「こ
 れかろは、そういう人達の分まで残さず食べ
 ぶうね。し」と言われ、何か募金活動があれば
 進んで取り組むうと思いましたが。そういう人
 達が、みんな楽しんで、おいしくごはんを食
 べれるぶうに、私達も協していいこうと思いま
 す。

そして今現在も、おいしくごはんを食べてい
 ます。母がお米を買う時に、お米を売って
 る人から教えてもらった事があつたぶうで、
 それは、季節ごとにおいしい米があると言わ
 れたぶうです。

まず、九月と四月までが、ひとめぼれで、
 五月と八月ごろいまでが、ささいしきかおい
 しいぶうです。通りで母は、よく米を変える
 と思いましたが。ぶう言う事も色々教えてもら
 い、毎日おいしくお米を食べています。親は
 仕事で、いぶがしくて姉や兄も学校で遅くて
 一人ぶごはんを食べていた時もありましたが、
 今は、家族で楽しく食べられたとて、幸せです

これからも、米を大事にして家族関係も大切にしていきます。